

---

#### 4 難治高齢者アトピー性皮膚炎の漢方治療に伴うIgERISTとRASTの変動について

○石井 正光、小林 裕美、水野 信之、寺嶋 亨（大阪市大医学部皮膚科）高橋 邦明（大東市、高橋皮膚科）2）山本 巖（大阪市、山本内科）

（目的）；近年、アトピー性皮膚炎（以下AD）は難治例が増加し社会問題となっている。乳幼児期のADの増加のみでなく、幼少児期に一旦治癒していたものが再発し成人型ADとして発症するものが急増してきた。これらは典型的なアトピー歴を持ったADとして分類されるが、最近の成人型の例では子供の時から皮膚炎の既往もないのに成人になってから、突然ADの症状を示し始める患者も多い。これらの患者を調べると、発症までに、アレルギー性の、喘息、鼻炎、結膜炎などの症状の既往があるものが多いが全くアトピー歴のない患者も存在する。アトピー歴の有無に関わらず高齢者においても症状が臨床的にADであり、他の成因が見あたらずIgE高値などをもとにADと診断するような症例が最近増加しているように思われたので高齢者ADをまとめ、治療法などにつき検討することを試みた。

（方法）；最近5年間に石井外来を受診したAD患者のなかで2カ月以上漢方治療を受けた重症または難治再発の成人型ADの症例は155例であった。そのうち50歳以上を高齢者ADとして集計したところ10症例があり6.5%であった。これらの症例につき各種検査値を検討し、治療内容、治療結果を検討することとした。

（結果）；高齢者AD10例の内訳は、50歳代が3例、60代が5例、70代が2例となった。初診時のRIST総IgE値は700代から30000代に分布した。これらの患者に西洋医学的治療に加え食養および漢方薬として補中益気湯、柴胡清肝湯、温清飲、黄連解毒湯、桂枝茯苓丸、通導散、越婢加木湯などを併用して治療したところ著効3例、有効5例、やや有効2例、無効0と高い有効性を得た。検査では、総IgE値が低下するのみならず、各種のRAST値が低下していた。